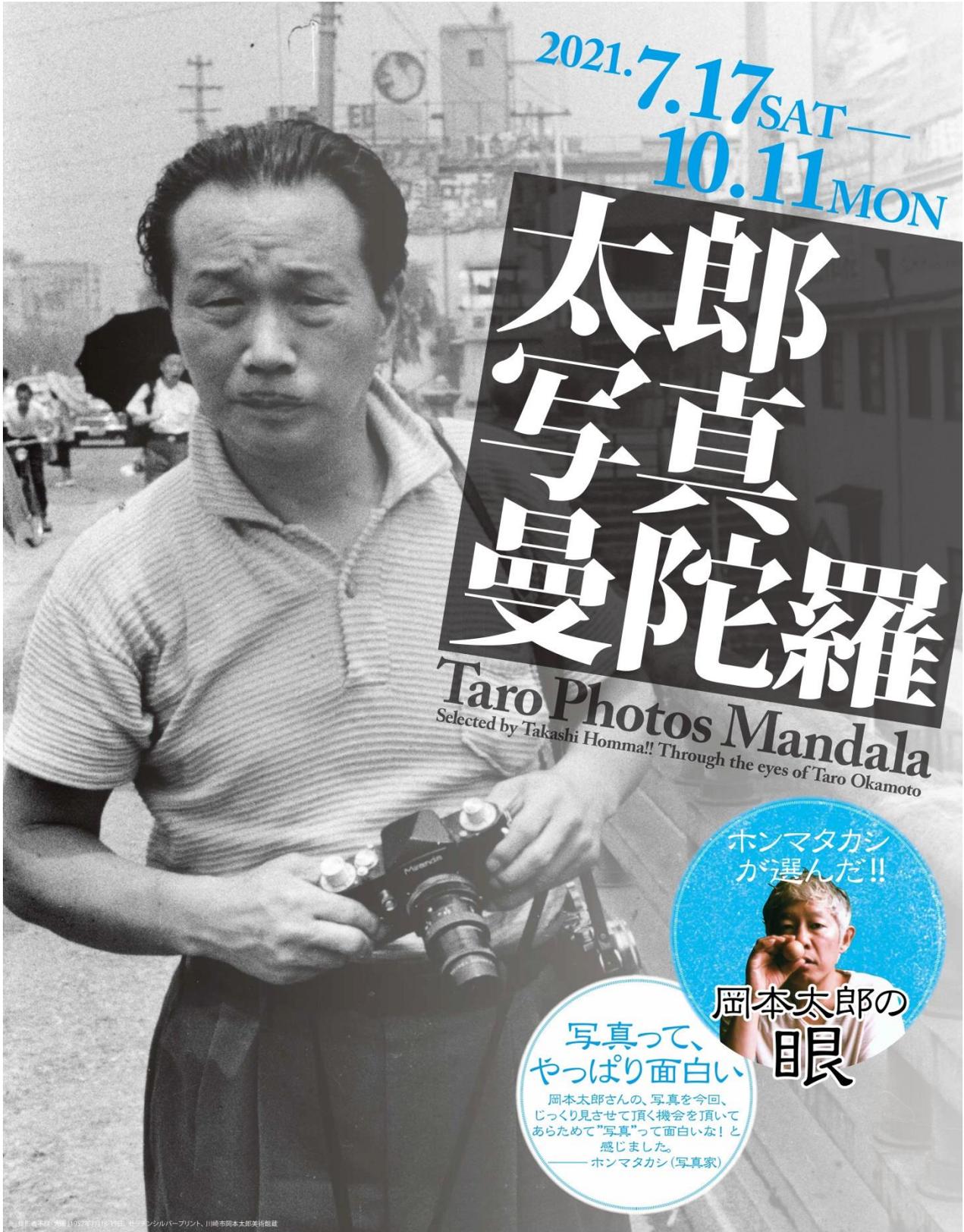


2021年6月吉日

PRESS RELEASE

川崎市岡本太郎美術館



写真って、
やっぱり面白い

岡本太郎さんの、写真を今回、
じっくり見させて頂く機会を頂いて
あらためて“写真”って面白いな！と
感じました。
——ホンマタカシ(写真家)



川崎市岡本太郎美術館 Taro Okamoto Museum of Art, Kawasaki

〒214-0032 川崎市多摩区榑形7-1-5 生田緑地内 tel.044-900-9898 http://www.taromuseum.jp

主催：川崎市岡本太郎美術館 助成：一般財団法人地域創造 開館時間：9:30~17:00(入館は16:30まで) 休館日：月曜日(8月9日、9月20日、10月11日を除く)、8月10日(火)、9月21日(火)、24日(金) 観覧料：一般900(720)円、高・大学生・65歳以上700(560)円、中学生以下無料()内は20名以上の団体料金

(交通) ●小田急線向・丘遊園駅 一南口から徒歩17分 一南口からバス(3分5番のりば・瀬田駅前口行・溝19系統(1時間に1~2本)「生田緑地入口」下車、徒歩8分 一南口からタクシー4分(日本民家園前下車)徒歩5分 一北口から小田急バス10分(2番のりば・専修大学前行・向10系統(1時間に2~6本)終点「専修大学前」下車、生田緑地西口園路(通行可能時間8:00~17:30)を通過して徒歩6分 ●車利用の場合は、生田緑地東口・西口駐車場(有料)をご利用ください。



展覧会概要

岡本太郎は、雑誌連載の企画で日本各地を取材のために訪問し、文章の挿図のために自ら写真を撮り続けました。そこには、1954年の写真家・土門拳との対談で自身が述べた通り「偶然を偶然に撮影して必然」にした像が確かに撮影されています。岡本の写真は記録であるものが多く、それはカメラを通して岡本が対象に見出した発見の記録だったのでしょう。

一方、対象との特有の距離感とクールな色合いを持ち、被写体をその背景や文脈を切り離して写し出すことで高い評価を得てきた写真家・ホンマタカシは、自身の写真について「写真を使った世界の見方をさまざまに問いかける試み」と語っています。

本展覧会は、岡本が撮影した写真を中心に掲載した『太郎写真曼陀羅』（筑摩書房、2011年）をホンマタカシの視点から再構成する写真展です。ホンマが選んだ写真は、岡本が取材の対象として被写体に迫るように撮影したものではなく、街中の看板や建物、旅先で出会った女性、ふいに写り込んだ人々など、取材の合間に何気なく、ついシャッターを切ってしまったように見える写真です。そういった「なんてことない風景」の中にホンマは写真の、そして岡本の世界の魅力を見出しました。また、自身が写すだけでなく、他者が撮影した像をも取り入れて作品としてきたホンマの視線は、岡本が撮影した写真と岡本自身が写された写真を区別せず、「岡本太郎が居て、そこになんらかのことが起こっていて、誰かがシャッターを切る。」それが岡本太郎の写真であると捉えました。



「沖縄・琉球紅型研究会」1959年11月21日



「大阪市街」1957年1月18日

多くの未発表作と岡本自身を合わせたこの岡本太郎の小宇宙ともいえるような写真群は、岡本の写真の新たな見方を発見する手がかりとなるでしょう。

開催概要

展覧会名 「太郎写真曼陀羅 ―ホンマタカシが選んだ!! 岡本太郎の眼―」

会 期 7月17日(土)～10月11日(月)

開館時間 9:30～17:00(入館は16:30まで)

休 館 日 月曜日(8月9日、9月20日、10月11日を除く)、8月10日(火)、9月21日(火)、9月24日(金)

観 覧 料 一般900(720)円、高・大学生・65歳以上700(560)円、
中学生以下は無料 ※常設展もあわせてご覧いただけます。

※()内は20名以上の団体料金

主 催 川崎市岡本太郎美術館

助 成 一般財団法人地域創造

同時開催 常設展「太郎さんの心の中を楽しもう！」 会期 7月8日(木)～10月11日(月)

※開催期間等、変更になる場合がございます。最新の情報は当館ホームページにてお知らせいたします。

みどころ

- 写真家ホンマタカシが『太郎写真曼陀羅』(筑摩書房、2011年)から選んだ岡本太郎の写真を5つの分類で紹介
- 分類ごとにホンマタカシの見どころコメントを紹介
- 岡本太郎が日本各地で撮影した写真と岡本自身が写された写真を紹介
- 本展覧会はすべての作品の写真撮影が可能です(動画撮影、フラッシュ撮影、三脚・自撮り棒・ジンバル等の器材の使用は不可)
出品作品の中からお気に入りを見つけて、SNSでシェアしましょう

展示構成

1. 岡本太郎自身
2. ポートレイト
3. 取材
4. 看板
5. スナップショット

出品作品(予定)

岡本太郎 写真約160点・岡本太郎自身:10点・ポートレイト:27点・取材:61点
・スチルライフ:9点・看板:12点・スナップショット:36点
彫刻約10点 計約170点



撮影者不詳「秋田 飯田川」
1957年2月14日



「徳島・阿波踊り」
1957年8月9日



「三重 伊勢市～松阪市」
1958年3月21日

お問い合わせ

川崎市岡本太郎美術館 展覧会担当:篠原、片岡 広報担当:森近(pr@taromuseum.jp)
〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区枳形 7-1-5 生田緑地内
TEL:044-900-9898 / FAX:044-900-9966

関連イベント

ワークショップ「ささいここうちくく」

岡本太郎の写真をプリントした紙を様々な形状にカットし、
写真家・ホンマタカシと一緒に「再構築」して新しいイメージを制作します。
会期中、完成した作品はギャラリーにて展示予定です。

日 時:8月22日(日) ①13:00～14:30 ②15:00～16:30

講 師:ホンマタカシ(本展監修者・写真家)

対 象:小学生以上

定 員:各回10名

場 所:岡本太郎美術館 創作アトリエ

料 金:500円(観覧料別)

申 込:電話受付(8/3(火)10:00から受付開始)、先着順

対談 ホンマタカシ×榎木野衣

ホンマタカシ(本展監修者・写真家)と榎木野衣(美術批評家)が岡本太郎の写真について語ります。

日 時:9月12日(日) 14:00～15:30

定 員:40名程度(当日先着順)

場 所:岡本太郎美術館 ガイダンスホール

料 金:無料(要観覧料)

申 込:事前予約不要

その他、関連イベントは当館ホームページで随時お知らせします。

<https://www.taromuseum.jp>

※新型コロナウイルス感染拡大対策のため、イベントの開催内容が変更となる場合がございます。

詳細は当館ホームページで随時お知らせいたします。

川崎市岡本太郎美術館ホームページ <https://www.taromuseum.jp>

「太郎写真曼陀羅 —ホンマタカシが選んだ!! 岡本太郎の眼—」

No.1



撮影者不詳「大阪」

1957年7月18-19日

No.2



《若い夢》1974年 FRP

No.3



《動物》1983年 FRP

No.4



「沖縄 竹富島・伝統の踊りを見る人々」

1959年11月29日

No.5



「機上より(九州へ向かう途中富士山を望む)」

1955年9月25日

No.6



「東京 青山・アトリエの庭」

撮影年不明

No.7



「土偶(神奈川県横浜市出土)」

1956年2月23日

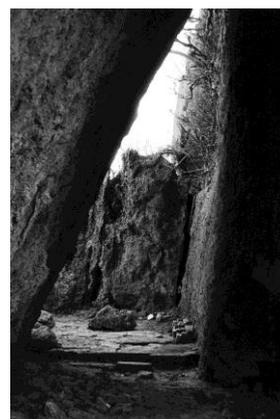
No.8



「長崎市街」

1957年3月6日

No.9



「沖縄 斎場御嶽」

1959年11月23日

お問い合わせ

川崎市岡本太郎美術館 展覧会担当:篠原、片岡 広報担当:森近(pr@taromuseum.jp)

〒214-0032 神奈川県川崎市多摩区枡形 7-1-5 生田緑地内

TEL:044-900-9898 / FAX:044-900-9966